

筑波大学大学院博士課程

システム情報工学研究科修士論文

筑波大学大学院システム情報工学研究科
における修士論文の書き方

筑波 太郎

修士（〇〇〇〇）

（△△△△専攻 □□□□学位プログラム）

指導教員 筑波 大二郎

20XX年3月

概要

この文書は、筑波大学大学院システム情報工学研究科の修士論文本体のサンプルである。このファイルを書き換えて、この例と同じような書式の論文本体を \LaTeX を使って作成することができる。

このサンプルは、学生諸君が面倒な位置決めをして表紙を作成する手間を軽減するために提供している。もちろん、このサンプルで示す表紙は例であり、要項に準拠していれば、このファイルに頼らずに自分で表紙の位置決めを行ってもよい。

目次

第1章	はじめに	1
第2章	形式	2
2.1	表紙	2
2.2	本体	2
	謝辞	4
	参考文献	5

図目次

2.1 図の例	3
-------------------	---

第1章 はじめに

修士論文自体は、まとめて製本し保存するため、体裁を大体そろえてもらうことになっている。そのため、このような修士論文本体の形式の例を作成した。

研究の内容や分野によっては書き方が異なる場合もあるので、詳しいことは指導教員に聞くとよい。この文書は主にタイトルの作成方法と、論文の体裁を示すのみであり、どういったらよい論文になるかの示唆は含まれていない。

第2章 形式

ここでは、論文の表紙および本体の記述方法について述べる。

2.1 表紙

表紙は、`\maketitle` によって作成するため、以下の項目に相当する文字列をそれぞれ記述する。

題目: 題目は `\title` に記述する。行替えを行う場合は `\\` を入力する。ただし、題目の最後に `\\` を入力するとコンパイルが通らなくなるので注意する。なお、4 行以上の題目の場合、表紙ページがあふれるためスタイルファイル “`sie-euc.sty`” を変更する必要がある。

著者名: 著者名は `\author` に記述する。

学位: 学位名は `\degree` に記述する。

指導教員名: 指導教員は `\advisor` に記述する。

専攻名: 専攻名は `\majorfield` に記述する。

学位プログラム名: 学位プログラム名は `\programfield` に記述する。

年月: 年月は `\yearandmonth` に記述する。

2.2 本体

本体は 1 段組で記述する。

図表には番号と説明 (caption) を付け、文章中で参照する。表 2.1 と図 2.1 はそれぞれ表と図の例である。表の説明は上に、図の説明は下を書くことが多い。図の挿入に用いるパッケージについては使用環境に合わせて自由に選択してほしい。

詳しくは参考書など (少し古い)[1][2] を参照のこと。また、奥村晴彦氏の「日本語 $\mathrm{T}_{\mathrm{E}}\mathrm{X}$ 情報 (Japanese TeX FAQ)」<http://www.matsusaka-u.ac.jp/~okumura/texfaq/> は、日本語の $\mathrm{T}_{\mathrm{E}}\mathrm{X}$ に関する情報が充実している。また、具体的な論文としての文献参照例として [3] を挙げておく。

表 2.1: 表の例

年 度	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
1995	85	92	86	88
1996	83	89	90	102
1997	88	87	91	112
1998	144	93	90	115



図 2.1: 図の例

謝辭

参考文献

- [1] 野寺隆志. 楽々 \LaTeX . 共立出版, 1990.
- [2] 磯崎秀樹. \LaTeX 自由自在. サイエンス社, July 1992.
- [3] Randal E. Bryant. Graph-based algorithms for Boolean function manipulation. *IEEE Transactions on Computers*, Vol. C-35, No. 8, pp. 677–691, August 1986.